

# ちびっこ チャンピオン

## 「われら インディアン!!」

みはる保育園のなかよしたち

(左上から)

いわや さくあさん (6さい)  
さかさき が いくん (5さい)  
いしざわ い っ とくん (5さい)

(左下から)

ながさか ゆうとくくん (6さい)  
こ ん ゆうあくん (6さい)  
さかさき か い りくん (6さい)

このコーナーでは、元気いっぱい  
な園児達の作品をご紹介します。



深浦町の花



福寿草

深浦町の木



樺

深浦町の鳥



カモメ



このコーナーでは誕生日を迎えた  
ちびっこ達をご紹介します



藤田 瀬叶せな とくん

(関)H30/8/17生

「タラコばかり食べ過ぎないでね(\*´3´\*)」



### 草創教育長の

### 「今月の一枚」

#### 横磯のねぶた

扇ねぶたの両面の写真です。  
四十年ほど前、横磯小学校の子どもたちと一緒に制作しました。子ども会からねぶた運行の山車の絵を依頼された校長が、夏休み前に私を呼んで、「草創先生が作ってください」と命じたのです。いわゆる「丸投げ」ですね。(笑)

ねぶた絵なんか描いたことありません。第一、子ども会活動も教員の本務ではないはずで、

はあ？ 下絵から全部まかせる？ この暑い体育館の中で作業するの？ え？ 電熱器でロウを溶かす？ 中でハグラランおすよ。

最初は不満だらけ。でも、汗だくで作業を進めていくうちに、私も担任した子どもたちも見事にハマっていきまして。皆で一つのものを創り上げていく一体感の熱さと暑さとロウの匂いに、酔っぱらっていく感じでした。

本務でなからうが時間外だろうが、子どもと喜びを分かち合えれば本望だ。昔の学校は、若い教師たちの、そんな独りよがりの青くさい熱情に支えられていたのかもしれない。写真では見えませんが、一行の中には、横磯に伝わる「大間の獅子舞」の小さな後継者たちもいて、運行の要所で踊りを披露するのも見せ所でした。

この獅子舞も、地域の要請を受け学校が練習の場を提供するなど、継承に一役買っていたと記憶しています。

山車にしろ獅子舞にしろ、地域の伝統文化継承のために学校が大きな役割を背負った時代だったので、

文科省が示す「学習指導要領」でも、文化や伝統について理解を深め尊重する態度を育てよう学校に求めています。

家族愛同様、郷土への愛着が安心基地となり、子どもの向上心を高めていく効果は大いに期待できます。

でも、今の時代、学校への「丸投げ」は愚かです。ふくれ上がった学校機能をさらに肥大化させ、自由度を奪います。

実は作業中、はしゃぎ過ぎたヒロアキが容器をひっくり返して、ロウが顔にかかった時はあわてました。駆けつけた母親から「目つぶれればどうするの」と、大変な剣幕で叱られたのは苦しい思い出です。

伝統文化の継承を求められても、学校は、地域とウインウインの関係で、さまざまなリスクと教育効果を協議すべきです。

(教育長 草創 文人)